

鈴木 木源美はカメレオンのよ  
うな作家だ。ニッポン

のおじさんの生顔を軽妙なエッセイに綴り、女性誌の誌面の変遷から世相を読み解き、硬質な文体の純文学で二度、芥川賞候補にも挙がった。鈴木いづみが生きていたら嫉妬しただろう。そんな彼女がみな手をつけるのも恐ろしいだろう題材に果敢に挑んだ。

『不倫論』は、不倫を賛美するのでも貶めるのでもない。肯定と否定の安直な二元論を超え、なぜ人は不倫に惹かれてしまうのか、その果てに何があるのかを炙り出す。それも、クレオパトラや『ボヴァーリ夫人』、愛人バンクまで、豊富な事例を参照しながら。いわゆる両論併記を方便として使うこともない。ただ、不倫の魅力と厄介さを、実体験も含めて滔々と語る。

芸能人の不倫を大衆とマスコミが「ネタ」として瞬間的に消費し、すぐさま忘却してゆく現状にも言及する。話は戦後急速に増加した恋愛結婚にも及び、その内実を「恋愛のままならなさ」と伝統や制度の猥雑さを飲み込んだ、厄介極まりない代物」と記す。

不倫論



## なぜ人は惹かれるのか 魅力と厄介さを語る

土佐有明

とさ ありあけ/ライター

不倫を希求してしまいう自分が自分なら、不倫を拒絶する

自分もまた自分である、と著者は言わんとしている。両者のせめぎあいにもがく男女の業の深さにこそ睥睨すべきだ。

鈴木は、一夫一妻制について考察するうちに既婚者となつた自分についても開陳する。

やはり誠実な作家である。

やはり誠実な作家である。

『不倫論 この生きづらい世界で愛について考えるために』

鈴木涼美=著

平凡社 定価2090円(税込)

ISBN978-4-582-83969-2

# 本

## 農業に新風を起こす 元気な女性たち

小川直樹

おがわ なおき/編集部



「ニッポンはおいしい!」

金丸弘美=著

理工図書 定価2090円(税込)

ISBN978-4-8446-0965-0

日

本の農業という、高齢化、人手不足、海外

産品との競争など厳しい現実  
にさらされているという固定  
観念にとらわれがちだ。本書  
では食環境ジャーナリストの  
著者が「新たな創造の種を蒔  
き育む人たち」として、農産  
品の栽培や加工、販売、情報  
発信など、現場で生き生きと

活躍する全国の女性たちを紹介している。

オーガニック朝市や道の駅  
の魚売り場の運営、ウイスキー  
の開発や魅力発信、製茶、食  
体験ができる宿の案内――。  
幅広く取り組む12人へのイン  
タビューを収録した。インター  
ネットやSNSの普及、消費  
者の健康志向、行政の起業支  
援などの追い風を生かし、消  
費者と直接ふれ合い、地域に  
根ざした事業を展開している。  
もちろん皆、最初から順風  
満帆でなく、今に至るまで試  
行錯誤や下積みがあった。さ  
まざまな社会人経験を積み、  
海外修行に出かけ「あきらめ  
なかった」ことが今につなが  
っている。さらに共通するの  
は、商品や農産品への愛着、  
生産者への尊敬の思いが強い  
こと。何より一緒に取り組む  
家族の支えがある。

最初からダメだとあきらめ  
てはどんな産業でも未来はな  
い。著者は「活力と秀でたア  
イデアと行動力と実践と細  
やかな手仕事で、地域に豊か  
さをもたらしている女性」に  
エールを送る。元気な地域づ  
くりを目指すためのヒントが  
詰まった一冊だ。